29【P2】Ⅱ-260

医薬品添付文書の比較－－1950年代と2000年代　（その3）

○五位野 政彦[1]([1]東京海道病院薬)

【目的】医薬品情報提供の歴史的変遷を知る目的で，１９５０年代発行と２００３年現在流通の添付文書を比較，報告する．

【方法】比較検討添付文書：ベサコリン　　（エーザイ）

　１９５０年代発行と推察される注射製剤添付文書と，２００３年現在流通している経口製剤添付文書とを比較する．（同注射製剤は１９６８年販売中止）

【結果】１９５０年代発行（推察）の添付文書には，下記の特徴がある．

　１）経口製剤，注射製剤共通の添付文書

　２）縦書きの記載

　３）宣伝文の存在

　４）禁忌および，注射時の注意の記載

　５）重量単位の漢字表記　（　「瓦：グラム」,「瓩：ミリグラム」等　）

【考察】ＭＲによる医薬品情報提供活動が不十分（あるいは存在しない）時代においては，これらの添付文書は医療技術者が医薬品情報（薬学的情報）を得る唯一の手段であった．

　今回の添付文書からは，当時の医療技術者に縦書き，規格の漢字表記が違和感無く受け入れられていた状況を示す．局方も第４局までは縦書きであり，第二次大戦前の資料の影響が残っている場合，縦書き記載の利点が，発行者にはあったと思われる．